

組織目標評価報告書（平成27年度）

部局名： **埋蔵文化財調査研究センター**

部局長名： **門岡 裕一**

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
①教育領域	
①-1 目標	自己評価
<p>・「博物館実習」の一部を分担し、構内遺跡における調査・研究の成果を教育活動に活かす。授業形式は少人数制をとり、自発的な思考や発言を促すことによって、授業における習熟度をあげる。</p> <p>・「構内遺跡の発掘調査」や「その報告書作成」などを業務とする本センターの職場環境を、幅広い分野の学生に提供し、社会性を高めるための教育的支援や経済的支援を行う。</p> <p style="text-align: right;">・学習・研究の場として、授業や学生の受け入れに努める。</p>	<p>【博物館学の授業】実習を8月6～18日に実施した。受講生約30名を3班に分け、各2日間の授業構成とした。1班10名程度の少人数制を確保し、個々人の発表を加えることで習熟度を高める目標は十分に達成できた。実習以外の博物館学授業の受け入れ(受講生数約40名)や、構内遺跡出土遺物を授業に貸し出すなど、発掘資料を教育面に効果的に生かすことができた。</p> <p>【学生雇用による支援】オンザジョブトレーニングとして戦略的教育経費を獲得したが、予定の半額であったため学生雇用は2名となったが、ワークスタディで雇用した3名をあわせて、合計5名の雇用となり、目標を上回った。所属分野も3学部(理・工・文)にわたり、幅広い分野の学生に対する経済的・教育的支援を達成した。</p> <p>【その他授業への協力】考古学概説の授業の一環で、2月に開催した展示会が利用された。約30名の学生が随時展示を見学し、研究最前線の展示に刺激を受けたことが、アンケート結果からも確認できた。</p>
①-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
<p>・「博物館実習」の授業は1班10数名で対応し、終了時に学生全員が発表する時間を設定する。</p> <p style="text-align: right;">・オンザジョブトレーニングの戦略的教育経費を獲得する。</p> <p>・オンザジョブトレーニングで雇用する学生は、複数の学部を対象とし、4名以上とする。</p>	
②研究領域	
②-1 目標	自己評価
<p>・センター教員の個別研究を進め、全教員が科研費などの申請を行い、外部資金の獲得に努める。</p> <p>・岡大内の構内遺跡をはじめとする埋蔵文化財の調査研究に関して、関連分野あるいは周辺自治体との連携を強化し、幅広い研究分野に資する。</p> <p style="text-align: right;">・構内遺跡の研究成果を広く外部へ発信し、多様なニーズに応える。</p> <p style="text-align: right;">・三次元計測機器(FARO)を活用した調査研究を推進する。</p>	<p>【科研費の申請と獲得】教員の申請率は100%を達成した。その内2件について科研費を獲得した。外部資金は合計581万円である。</p> <p>【関連分野との連携】以下の3件があげられる。①鹿田・津島両地区で実施したボーリングデータを自然科学研究科の教員に提供し、岡山平野の形成に係わる共同研究の推進に寄与した。②構内遺跡出土の縄文時代～中世の編組製品の資料を、全国的な研究グループに提供した。③鹿田遺跡出土遺物の胎土分析を岡山理科大学の教員と行い、その結果を報告書に記載した。</p> <p>【地元自治体との連携】岡山県古代吉備文化財センターと三次元計測機器の利用について検討の場をもった。岡山市教育委員会職員と鹿田遺跡出土の近世陶磁器の検討を行った。</p> <p>【構内遺跡の研究発信】鹿田遺跡の研究成果を、報告書での考察で1本、紀要に講演記録として1本、そして津島岡大遺跡では紀要に1本を掲載した。</p>
②-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
<p>・科研費の申請率を100%とする。</p> <p style="text-align: right;">・研究面での連携にあたって、関連分野の研究者に構内遺跡出土の資料を提供する。</p> <p style="text-align: right;">・地元自治体と連携し、研究の場を設ける。</p>	
③社会貢献(診療を含む)領域	
③-1 目標	自己評価
<p>・自治体が開催する講座や、地元教育現場の要望などに協力し、社会連携を促進する。</p> <p>・地域の埋蔵文化財に関する事業に対して指導的な助言を行うことで、埋蔵文化財行政に寄与する。</p> <p style="text-align: right;">・展示会を通じて、構内遺跡の研究成果をベースにした面白い話題を社会に提供し、岡大のイメージアップにもつながる活動に取り組む。</p>	<p>【講師依頼】県内外から5件の依頼に応じた。その中には、岡山県立博物館・岡古代吉備文化財センター主催のスライド会での鹿田遺跡の調査成果発表や、岡山県内埋蔵文化財担当職員研修での構内ボーリングデータに基づいた研究成果を踏まえた講演が含まれる。</p> <p>【埋蔵文化財行政への助言】岡山県下で4件、岡山県外で3件の委員会に対応し、助言を行った。</p> <p>【地元教育現場への協力】岡山市内の中学校2校から「職場体験」として、合計6名の生徒を延べ6日間受け入れ、目標を十分に達成した。</p> <p>【展示会での話題性企画】展示会の開催に合わせて、鹿田イメージキャラクター(しかたん)を動かす工夫を行い、大学のフェイスブックにも取り上げられた。</p> <p>【その他】鹿田学区町内会からの「鹿田夏祭り」への参加と鹿田遺跡イメージキャラクター使用依頼に応じた。当日、同キャラクターとともに会場にブースを出店し、同町内会の取り組みに大いに寄与した。</p>
③-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
<p>・自治体からの講師依頼に応じる。</p> <p style="text-align: right;">・自治体主催の委員会や審議会などを通じて、年間に数回は、埋蔵文化財行政などに関する問題に助言を行う。</p> <p>岡山市内の中学校から「職場体験」について要望があった場合は、最低、年間1校・生徒3名程度は受け入れる。</p>	
④センター業務	
④-1 目標	自己評価
<p>・構内遺跡の発掘調査や立会調査などを実施する。調査にあたっては、調査の効率化と質の向上に努める。</p>	<p>【発掘などの調査】津島地区での発掘調査1件のほか、建築工事に応じて随時立会調査を実施した。</p> <p>【発掘調査の整理作業】鹿田地区の7件の発掘整理作業を実施した。</p> <p style="text-align: right;">【印刷物刊行】発掘調査報告書1冊・紀要1冊・センター報2回を刊行した。</p> <p>【展示会】津島地区(創立五十年記念館)で2月9日～14日に開催し、発掘調査・研究成果の学内外への公開に寄与した。見学者数は延べ363名にのぼり、文理融合の研究成果を前面にアピールした展示は好評を博した。同時に講演会を開催し、93名の参加があった。</p> <p>【発掘成果の公開】県内外の5機関に遺物を貸し出し、発掘成果の公開を進めた。</p> <p>【H25年度特別展の冊子刊行】学内外の関連機関・研究者との協力によって『吉備の弥生時代』を刊行し、弥生時代研究の推進に資することができた。</p> <p>【木器保存処理】前年度から継続の保存処理を終了した。その後生じた含浸槽の故障を修理し、来年度に向けての準備を整えた。</p> <p>【遺物の保存・保管】部局長および理事裁量経費によって、鹿田地区出土の曲物と青磁碗の保存処理と修理を実施した。その後、学内外の展示で公開した。鹿田遺跡1次調査の遺物について、確実な保管状態に向けて改善を進めた。</p> <p style="text-align: right;">【省エネ推進】エアコンの取り替え・樹木の移植など、積極的取り組みを進めた。</p>
④-2 目標とする(重要視する)客観的指標	
<p>・鹿田地区の発掘調査7件について整理作業を実施する。</p> <p>・発掘調査報告書を1冊、紀要を1冊、そしてセンター報を2回刊行する。</p> <p>・展示会を津島キャンパスで1回開催する。</p> <p>・平成25年度に開催した特別展開連の冊子を刊行する。</p> <p style="text-align: right;">・木器保存処理を1期分行う。</p> <p style="text-align: right;">・鹿田遺跡の出土遺物について、年間で最低300箱の保管状態を改善する。</p>	
【総括記述欄】	
<p>運営体制の点では、昨年度から雇用している特別契約職員が存在が、報告書作成に軸をおいたセンター業務の目標達成に重要な役割を果たした点は特筆に値する。管理・運営面全体では、事務管理を担う事務局とセンターあるいはセンター内での教員と非常勤職員のスムーズな連携によって、滞りなく業務を進めることができた。</p> <p>今年度は、報告書作成作業の推進だけでなく研究面に大いに寄与する成果が際立つ。例えば、2件の科研費を獲得したほか、文理融合研究の積極的取り組みは予想を超えた成果を生み出し、研究面の発展性を高めるものとなった。その成果は、展示会を通じて学生にも強い刺激を与え、教育面に寄与することもできた。大学構内という身近な考古資料やその研究を体感できる本センターの環境は、通常の授業では得られない効果を発揮することを改めて示すものとなった。さらに、冊子『吉備の弥生時代』の刊行は、弥生時代研究に資する重要な作業と評価される。また、鹿田学区の町内会からの地元イベントへの強い参加要請は、岡大構内遺跡が地域にとって魅力的な資産であることを示している。同地区出土の重要遺物の保存処理・修理もこうした資産の充実につながり、岡山県立博物館からも特別展への貸し出し依頼を受けた。</p> <p>一方、大きな問題となったのが、発掘調査報告書印刷費が確保できない事態が生じたことである。頁数の少ない報告書へ変更し、科研費の間接経費を利用することで1冊を刊行したが、今後、本センターのこうした自助努力だけでは、法律で定められた報告書刊行義務に抵触する事態が派生することが憂慮される点で、重大な課題を残すこととなった。</p>	